

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等

## 1. 実践校について

実践校名	(きょうとしりつむらさきのこうとうがっこう) 京都市立紫野高等学校	
学科名	生徒数	学級数
普通科	6 6 7	1 7
アカデミア科	2 3 7	6
合計	9 0 4	2 3

## 2. 実践研究の対象

1 年生全学級 (普通科 5 学級・アカデミア科 2 学級)

2 年生全学級 (普通科 6 学級・アカデミア科 2 学級)

## 3. 実践研究の実施経過

	1 年生	2 年生
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間再編プロジェクトチームのメンバー追加募集</li> <li>・連携先の専門家等との交渉, ご挨拶</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間と総合的な学習の時間について教員への周知・研修</li> </ul>	
月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施分との変更点において</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修事後学習の指導案作成</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導案の更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携の物品手配, 日程調整, 庶務 (普通科アドバンスト, アカデミア科)</li> </ul>
月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別講師の授業 (アカデミア科)</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度新規実施の単元について指導案の作成 (アカデミア科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間発表の指導プラン作成</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンペティションの要項作成, 教員への周知</li> </ul>	
月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語集中セミナーと連携 (アカデミア科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動の指導案作成</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンペティションの具体案作成, 各種調整, 必要物品手配</li> </ul>	
月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施分との変更点において</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携 (アカデミア科理系)</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導案の更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果物作成と発表の指導案作成</li> </ul>
月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンペティションに聴衆参加させる際の指導方法について準備</li> </ul>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンペティション実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価</li> </ul>
月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンペティションの反省等</li> </ul>	
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施分との変更点において指</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用教材のとりまとめ</li> </ul>

月	導案の更新	
12月	・これまでの指導計画の評価 ・指導教材の作成準備	・指導計画の評価，総括と次年度指導計画の作成  ・授業，コンペティションおよび高大連携講座において消耗した物品の補充
1月	・昨年度実施分との変更点において指導案の更新	
2月	・海外研修旅行における探究活動との調整（アカデミア科）	
3月	・海外研修旅行 ・登校日にて，海外研修における探究活動の整理，分析，まとめ ・指導計画の評価，総括と次年度指導計画の作成	

#### 4. 実践研究の実施体制

＜京都市立紫野高等学校＞ ※担当者の重複あり。

企画部 15名

└企画部研究担当 4名（内数）…各授業のコーディネーター，その他実務

└総合的な探究の時間再編プロジェクトチーム 5名…カリキュラムの構築

└総合的な探究の時間／総合的な学習の時間授業担当者

- └1年普通科 担当者 10名…5学級を計10講座に分割
- └1年アカデミア科 担当者 4名…2学級を計4講座に分割
- └2年普通科スタンダードクラス 担当者 16名…4学級を計16講座に分割
- └2年普通科アドバンストクラス 担当者 8名…文理ごとに4講座に分割
- └2年アカデミア科 担当者 9名…文系5講座，理系4講座

＜特別授業の講師・高大連携講座の講師予定＞

NPO法人ハテナソン共創ラボ 佐藤賢一 代表 …1年アカデミア科

京都先端科学大学 山本淳子 教授 …2年普通科アドバンストクラス文系

立命館大学 秋吉恵 准教授 …2年普通科アドバンストクラス文系

京都工芸繊維大学 …2年普通科アドバンストクラス理系

- └分子化学系 池田裕子 教授
- └研究戦略推進本部 ジュンコン・プリヤーンヌッチ 特任助教
- └デザイン・建築学系 角田暁治 准教授
- └情報工学・人間科学系 平田博章 准教授
- └機械工学系 澤田祐一 教授
- └応用生物学系 小谷英治 教授

京都府立大学 … 2年アカデミア科

ト文学研究科	細越響子	准教授
ト公共政策学研究科	川勝健志	准教授
ト生命環境科学研究科	佐藤雅彦	准教授
ト	安田啓介	准教授
ト	リントウルオト正美	准教授
ト	田伏正佳	准教授

## 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

本市では、平成28年3月に学習指導案集を作成し、小学校・中学校・高等学校それぞれの発達段階に応じた計画的・系統的な政治的教養の教育を推進している。また、本市立高等学校社会科研究会と連携し、平成27年6月に「シティズンシップ教育研究グループ」を立ち上げ、政治的教養の教育を一層充実、発展させるために、モデル授業の研究・実践に取り組んでいる。

さらに、こうした取組を推進するため、平成28年度から新規事業として全市立小・中・高等学校を対象に「『政治的教養を育む教育学習指導案集』を活用した教育実践事業」を本市独自で予算化し、地域や社会の一員として貢献活動や課題への取組等により、主体的な選択・判断を行い、他者と協働して様々な課題を解決していく社会の形成者としての資質や能力の育成を支援しており、31年度も引き続き実施した。

実践校では、これまでからも総合的な学習の時間を活用し、地域連携・貢献事業や課題解決型学習に取り組むとともに、上記「シティズンシップ教育研究グループ」の拠点校として、生徒の政治的教養を育む教育実践を進めている。さらに28年度からの本研究の実績をもとに、また、これまでのグローバルな社会課題に対する取組や国際交流学習を生かし、多様な価値観を持ちながら、他者と協働できる主体的な人材育成を行う学校としての位置づけを確立させることを目指している。

本研究においては、実践校は総合的な探究の時間を中核に研究を進めているため、新学習指導要領を見据え、総合的な探究の時間におけるねらいや生徒につけさせる能力や指導方法・学校体制に対し、指導主事を中心に指導助言を行い、本プログラムの充実及び総合的な学習の時間の構築の支援を行った。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：京都市紫野高等学校（普通科・アカデミア科）

### 概要

- 持続可能な社会の構築(Sustainable Development：SD)をテーマとして、科学的な知見も一部に取り入れた課題設定型の探究活動を行うことで、これからの社会で必要とされる論理的思考力・表現力・交渉力・調査力・分析力を培うプログラムを開発する。

### 学習プログラムの目標

#### <普通科>

- 高度な情報化、技術の進歩とともに将来の予測が困難となる中で、正解が無い問いに立ち向かうべく、自ら主体的に課題を見つけ、学び、解決する資質・能力を培う。
- グローバル化・ボーダーレス化が進み、多様化する社会に適応するべく、国際人として他者・社会・自然とのつながりを尊重する態度を養う。
- SDの必要性を学び、自分たちの住む地域、国、地球の将来を考え、行動できるようになる。

#### <アカデミア科>

- 上記の普通科の目標に準ずる。ただし、学術的なアプローチでもって、SDに貢献することを旨とし、仮説の構築やその検証といった学究の手法に習熟することを求める。

### 学習プログラムの主な内容

#### <一年 共通>

- ① 持続可能な社会の構築（SD）とは【総合的な探究の時間、12時間…4～5月】  
SDの概要・実例を学ぶとともに、解決の在り方を模索する。
- ② 論理的な文章【総合的な探究の時間、12時間…5～7月】  
SDをめぐる問題を題材に、論理的な文章構造をとらえる訓練を行う。
- ③ モラルジレンマ【総合的な探究の時間、6時間…9月】  
SDをめぐる対立状況を題材に、価値観の衝突を経験する。
- ④ ディベート【総合的な探究の時間、6時間…10月】  
SDをめぐる課題を題材に、討論の手法に習熟する。
- ⑤ 模擬国連【総合的な探究の時間、8時間…11～12月】  
国連会議を模して、SDに関する条約をめぐって議論する。
- ⑥ 紫野半径 500m企画【総合的な探究の時間、14時間…12～2月】  
本校近辺をフィールドワークし、興味関心や違和感を疑問の形にし、そこから調査を進めて地域や社会に関する課題を発見する。

### ＜二年共通＞

- ① 海外研修旅行事後学習【総合的な探究の時間，6時間…4月】  
海外での経験を題材に，＜一年＞の⑥と同様のことをする。

### ＜二年 普通科スタンダード・アドバンストクラス人文科学コース＞

- ① SDGs 企画【総合的な探究の時間，24時間…5～9月】  
SDに貢献できるような企画を立案し，企画書の形にまとめて発表する。

### ＜二年 普通科アドバンストクラス自然科学コース＞

- ① テクノロジーと持続可能な社会【総合的な探究の時間，24時間…5～9月】  
京都工芸繊維大学との高大連携講座を通じて課題を設定し，調査，発表する。

### ＜二年 アカデミア科グローバルコース＞

- ① 学問と持続可能な社会【総合的な探究の時間，24時間…5～9月】  
環境経済学，英語教育学の講演を通じて研究課題を設定し，調査・発表する。

### ＜二年 アカデミア科サイエンスコース＞

- ① 科学と持続可能な社会【総合的な探究の時間，24時間…5～9月】  
科学的分野で探究活動を行いつつ，京都府立大学との高大連携講座を通じて活動の見直しや俯瞰視する作業を行い，成果を発表する。

### ＜一・二年 共通＞

- ① むらさきのコンペティション【特別活動，半日…10月】  
以下の探究活動の成果発表を全校規模で行い，投票や審査で優秀者を決定する。

## 学習プログラムの成果の概要

### ＜一年 共通＞

- 探究活動の基礎となる論理的思考・表現力，合意形成能力および課題発見力を培うことができた。

### ＜二年 共通＞

- 課題発見力を伸張させることができた。

### ＜二年 普通科スタンダードクラス・アドバンストクラス人文科学コース＞

- 自分の在り方生き方と社会を結びつけて課題を設定し，解決を目指す力を培うことができた。

### ＜二年 普通科アドバンストクラス自然科学コース・アカデミア科＞

- 自分の志す学問分野と社会を結び付けて課題を設定し，解決を目指す力を培うことができた。

### ＜一・二年 共通＞

- 発表する力・聴く力を培うことができた。